



◇定例市議会について.....	(2)
◇市政一般質問.....	(2)
◇写真コンテストのお知らせ.....	(3)
◇人事異動.....	(3)
◇火災専用電話架設など.....	(3)
◇市政の問題と展望(3) 市の農業行政.....	(4)
◇われらが母校(5) 平泉寺小中学校.....	(5)
◇こどもの広場.....	(6)
◇頬杖の由来.....	(6)



待望の給水開始は十月頃！ 水道工事順調にすすむ

工費一千四百万円を投じ建設中の水道工事は、その後順調にはかどりこのほど歴史的な起工式を行いました。七月末日現在の進捗状況は大体つきのとおりです。
勝川の水源地はくつきく工事中であり、興奮工事は、立石・芳野・河原・石坂通り約八百軒は完了。これからは水町通りを配管し、いよいよ十月月中旬には、右の配管工事を終えた沿線のみなさんに待望の給水ができるそうです。この給水家屋は約三百世帯で給水人口は約千五百人。
なお今年中の事業量は全体の約十五パーセントで工費は約二千万円です。（写真は起工式で諸々の神々に祈りを捧げる大立祭上）

市政の回顧と展望

市の農業行政

③

市の二大産業の一つに数えられる農業行政を如何に推進していくかは重大な問題である。そこで今回は本市の農業をのもの、実体に触れながら、三下五百余の農家のみなさんと共に、過去を振りかえり将来をユメ見ていくことにしようと思う。一口に農業行政といつても米作、副業、土地改良、畜産、果樹、水産と間口が広く奥行が深い。この回は米作中心の農業とその中にひそむ問題点をきぐりながら論をすゝめていくことにしよう。

稻作こそ本市農業の生命 年産約五万石

農地面積の八十八パーセントが水田だから、まさに米づくりを中心の農業である。昨年千八百町歩のタンボからえた米は約五万石、金になおせば約四億八千五百万円となる。これは昨年勝山盆地からとれた全農産物総額の七十五パーセントにあるから、文字どおり稻作は本市農業の生命である。

だから豊作か否かは、二千五百余の農家にとつても、はた又市につても極めて重大な問題である。

幸い農林省の中間発表によると、どうやら史上空前の五年連続の豊作が実現しそうである。誠にうれしいニュースである。しかし市内のある農家は一自然

の恵みによる豊作ということば自体が問題だ。豊作は人間の頭によつてつくり出するもので、今や考える百姓は自然の支配から徐々に脱皮しつゝある」といつておられる市の農業行政も、この辺農家のようない考え方にして農家のみなさんとガツチリ手を組んで歩んできている。



(写真は水稻採取田)

六、蚊・ハエは徹底的に退治すること。

まず市になつて手がけたのは、マチの在来種であつた種子の統一と更新であった。これが増産の第一歩であることは誰もが知つてゐるが、これを実行している農家はほとんどなかつた位だった。

効を奏した品種の統一と種子のとりかえ

あります市になつて手がけたのは、マチの在来種であつた種子の統一と更新であった。これが増産の第一歩であることは誰もが知つてゐるが、これを実行している農家はほとんどなかつた位だった。

市発足当時の農林課の調べによるところ、在来種が市内に九十種もあることがある。市一本の防除体制の確立

これが必ずしも適地適産の種でなかつた。そこで市は市内各地でそつて全水田面積の約半分の種子更新をおこなうと共に有望品種の統一をはかつたのである。

次に早期栽培で健苗を育て増産をはかるため、苗代の改善指導に乗出したことである。いまや保温折衷、電熱、ビニール、そして室内堆肥舎が三十五棟たてられ、これら堆肥舎が三百棟までふやしたい

までも安定播種の基礎である堆肥を含めて六百円に増額され相当の成果をあげていることは特筆されるべきである。

また安定播種の基礎である堆肥を含めて六百円に増額され相当の成果をあげていることは特筆されるべきである。

今日では反当防除費が市補助を含めて六百円に増額され相当の成果をあげていることは特筆されるべきである。

不充分であるのみならず薬剤による防除は関係地区が一本化になつてはじめて完全防除ができるのである。今日では反当防除費が市補助を含めて六百円に増額され相当の成果をあげていることは特筆されるべきである。

二、生水は飲まないこと

三、飲み過ぎたり食べすぎたりしないこと。

四、下痢をしたり熱が出たらお医者さんにみてもらうこと。

防除体制の確立で成果あがる



一、食前や調理前、用便後には必ず手を洗うこと。

十年後には三石台に

二十九年当時の反収に比べて、二斗八升増の二石四斗台にのしかつたのである。十年内には少くとも全国平均の三石台にはなんとあります……というたくましいユメは山内市長だけではあるまい。

開拓休憩——このあたりで市の農業の適当づての問題点をさぐつてみると、とにかく申上げた米作

をどうしたらいいか

たのである。十年内には少くとも全国平均の三石台にはなんとあります……というたくましいユメは山内市長だけではあるまい。

開拓休憩——このあたりで市の農業の適当づての問題点をさぐつてみると、とにかく申上げた米作

をどうしたらいいか

策から農家の経済安定政策へと、新農山漁村建設事業はその一つである。

やゝ理屈ばくなってきたがこのようないい農政の流れの中に立つて、農家の方々のせつばつまつた渴望はなんといつても米づくり一本では外に何かいゝ金もうけがないかとうことにある。

このような要望の中にたつて市では、タバコのほかに、新しくかんじマスという特産品を他市に先じて大きく打ち出したのであります。次回には、これらのことについてくわしく述べることにしておきます。

一本の農業を中心とした結論を元に要約すれば小農で農産物の商品化に難があるので金まわりが余りよくない——ということである。

その理由は一貫当たりの耕地面積が少い（六、六反）ことである。これでは米作り一本のお世話をさんあくまで自給自足的なものにならざるを得ない。

こゝに農業農家が八十三パーセントも占める基礎があり、ガソリンなどのものをみただけでは対策難として不十分である。そしてこれは本市特有の問題でもない。わが町の農業行政の問題点でもあるわけだ。

だから國としても農政のスイッチの切替を始めた。つまり増殖政

市議選挙

公明選挙・公明選挙・公明選挙

投票日……8月12日

午前7時から午後6時まで

開票……8月12日

午後8時半から各選挙区
の開票所で行う

・正しい選挙で伸びゆく郷土・
公明選挙・公明選挙・公明選挙

平泉寺小学校

(5)

平泉寺小
中学校

なっています。

学校の内外も近頃大分変つてきました。三年前にはクリーム色のスマートな校舎と並んで平泉寺校

があります。三方は山に囲まれて絶景、法恩寺山など高い山々とこれを見つて流れる大小の谷川が

本校の自然の庭をつくっています

そして春には勝山の弁天桜に負け

らない位、きれいな桜の花が校庭を

花壇や、チョットこの地方では珍らしい樹など百種以上集めた植物園もできました。

内部をのぞきますとテレビが見えます。このテレビは去年わたくし

件とたゞかしながら各種目にかなりの好成績をあげています。

もう二年前になりますが、わたくしの先輩の女子ソフトボール部は県体で優勝したことは余りに

汗水流してテレビを購入

II 珍種数々の植物園 II

有名です。

私たちにはこの先輩たちが残したあの猛虎のような斗志を受けついで勉強に運動に精一杯がんばついていたと思っています。そして私たちの尊敬する校長先生の合言葉であり又母校のモットーでもある「かたくましい実行力のある人々になるつもりです」。

平泉寺中学二年 武内 康正
(写真は校舎の全景)



たちがフキや葵草を採取しその代金で購入した、つまり私たちの汗の結晶です。いまのところ私たちの一番人気者になついています。

こうして私たちは「やれば何でも自分たちの力で実現できるんだ」という自信を得ました。

この力強い意気込みが校内のスポーツにもあらわれ、あらゆる悪条件とともにながら各種目にかなり

勝山市の中心部から北東約五キロメートルの所、小高い丘の上にス

マートな公民館と並んで平泉寺校があります。三方は山に囲まれて

絶景、法恩寺山など高い山々とこれを見つて流れる大小の谷川が

本校の自然の庭をつくっています

そして春には勝山の弁天桜に負け

らない位、きれいな桜の花が校庭を

花壇や、チョットこの地方では珍らしい樹など百種以上集めた植物園もできました。

内部をのぞきますとテレビが見えます。このテレビは去年わたくし

件とたゞかしながら各種目にかなりの好成績をあげています。

もう二年前になりますが、わたくしの先輩の女子ソフトボール部は県体で優勝したことは余りに

そのシリーズ 実 ウラヅキ敏



学校給食では、家で余り食べられないイヤなものでも食べられるようになるよい機会だと思います。それは学校で一人一食当りの栄養の基準量をきめて給食を実施し、なるべく全体の子どもの口に合うようなものを献立していますが、ある子どもにとつては食べられないものがあるかも知れません。たとえば、カロリーやビタミンを増すためにマカロニーや短麺がってきて、初めは蛔虫に想像したりすることもあるらうかと思ひます。まだきただてを食べなければ味の落ちるもののがたくさんあり、冷たくなつてからしか食べられないと

学校給食について

学校給食をするようになると、明らかに子供が時に嫌がる場合もありますので、果して教育上どれだけの値打ちがあるのでしょうか。

間関係が尊重されるのと同じことです。

「同じ釜の飯をくつた」という人
のとき弁当箱のふたでかくしてた
べたことを思い出されます。
学校給食はみんな仲よく、協力し
て勉強していくという学習に一番
大切な心構えや、平等感をもたせ
るために重要な生活経験であります。このことは大人の世界でも
それは「子どもたち全員が」「同じ
じものを」「同じじょうに」たべる
ということです。大人といわれる
わたくしたちの子どもの頃、昼食
のとき弁当箱のふたでかくしてた
べたことを見逃してはなりません。

This figure displays a collection of white dots scattered across a black background. The dots are concentrated into several distinct, roughly circular clusters of varying sizes and intensities. The distribution of dots suggests a spatial pattern, possibly representing a signal or data points in a two-dimensional space.

が越前へ入国した時、本願寺の勢力下にあつた北陸地方の門徒が之に対して一大驚異を感じたのは、信長は仏教の敵であり仏教を排撃するものと感違いしたからでした。

そこにはいわゆる一向一揆の旗の反撃と、一方又法界擁護のための反省があつたようと思われます。

顯如講の由來

月、方正の妙なりを極るまで二百年余、講は年次を重ねるに従つて盛大となり、明治維新までは頗如講の当日は、地方一般の信徒は家業を休み、老若男女がお詣りして難音を極めたので、勝山藩よりは警護の役人が差し出されたということあります。

このさうな因縁はもとすぐ顯れる人御講であれば、毎年行われる顯如講は正に仏教の堕落を阻止する戒しめとして、それが老人対象の慰めの域にとどまらず広く青少年の倫理観確立のために、年々に結進せられるものであるところに大きな意義が含まれていると思います。

信長が一日二抄を半定（大正二年八月——三百八十四年前）して越前を引上げた後、当時代官として勝山には柴田監物・柴田清左衛門の兄弟が居住していたが、この仏法の盛衰が危ういと思われた時に、別とかして北隣に根を張つた真宗の宗旨を引真で諱化する。さう顧姫上人に申立ててはどうかといふことを詐